

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター



高尾山のいきものたち

フクロウ (フクロウ科)



丸く平な顔に黒い眼が目立つ。体の上面は褐色に白の斑紋が入り、下面は白く褐色の縦縞が入る。平地や山地の森林、草原、里山などに留鳥として生息し、小型哺乳類や鳥類など幅広く動物を食べ、特にネズミ類を好む。単独かつがいで行動し、巣は、大木の樹洞などに作る。

ほとんど夜に活動し、暗い中で獲物を捕らえるため、感度がいい眼をもち、耳の付近がくぼんでいて小さな音も聞こえ、耳の配置により音源の位置も特定できる。また、獲物に気がつかれないように、羽毛の表面に細かい毛が生えていて、飛行中に音がしない。暗い夜の森の中でも獲物を仕留めるフクロウ。森の中で生きていくため、驚くような感覚を身につけた鳥だ。

(森林インストラクター 藤原 裕二)



NO.64

ツバキ (ツバキ科)

青森県、南は沖縄県まで分布する、常緑小高木で、高さ18m、直径50cmになるものもあります。名前の由来は諸説あり、葉につやがあるので「つやき」とする説や、葉が厚いので「あつばき」の「あ」が略されたとする説などがあります。

木材は散孔材で、辺材と心材の区別は明らかでなく、淡紅褐色をしています。木目は細かく、堅硬で、磨くと光沢が出て美しいです。

大きな木ではないので、用途は主に細工物、器具で、櫛、印鑑、将棋駒、玩具、床柱などに利用され、最近は備長炭の代用として、高級な炭として使用されています。

ツバキは冬から春に、鳥に目立つ赤い花を咲かせ、鳥に受粉を託す「鳥媒花」です。

木材以外の用途としては、種子から取れるツバキ油が有名で、日本人は千年も昔の平安時代から、食用や薬用、髪や肌のお手入れ、灯りの燃料、鉄製品のさび止め、木製品のひび割れ止めなど、様々な用

途でこのツバキ油を使ってきました。

なお、江戸時代に「首がぼとりと落ちるように散るので縁起が悪い花」と呼ばれたというのは明治以降に作られた俗説のようです。(皿)



材面



樹皮



花



果実と種子

令和4年度 森林カレッジ受講生募集

高尾山で自然とふれあいながら森林・林業について学んでみませんか。

【カレッジⅠ】

日程 令和4年5月21日（土）
内容 講義「森林の見方」
体験 森林散策
講師 元日本森林学会会長
桜井 尚武 氏



募集人員

30人

応募者多数の場合は抽選とします。

対象者

森林・林業に興味があり、18歳以上70歳未満の健康で急傾斜地での作業や山歩きが可能な方。

【カレッジⅡ】

日程 令和4年7月9日（土）
内容 講義「森に学ぶ～森づくり
ことづくり ひとづくり」
体験 下草刈り作業
講師 東京農業大学教授 宮林 茂幸 氏



申込方法

往復ハガキに、①住所、②氏名（ふりがなを入れる）、③年齢、④職業、⑤電話番号（自宅と携帯電話）を記入のうえ高尾森林ふれあい推進センター「森林カレッジ係」までお申込みください。

申込締切日

令和4年4月18日（月）必着

【カレッジⅢ】

日程 令和4年10月15日（土）
内容 講義「木の成長としくみ」
※講義のみとなります
講師 元多摩森林科学園園長 三輪 雄四郎 氏

参加費

傷害保険料として370円（年間保険料）程度負担いただきます。

※新型コロナウイルス感染症等の状況により日程及び内容について変更又は中止とする場合があります。

ご理解の上お申し込み下さい。

【カレッジⅣ】

日程 令和5年1月14日（土）
内容 講義「森林の恵みと共に
～炭焼き、そして森林の香り～」
体験 炭焼き作業
講師 東京大学名誉教授 谷田貝 光克 氏



お問合せ先

関東森林管理局
高尾森林ふれあい推進センター
〒193-0844
東京都八王子市高尾2438-1
電話 042-663-6689
FAX 042-663-7229

ホームページ <http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

出前森林教室

八王子市立 上川口小学校

2月8日(火)と9日(水)の2日間、上川口小学校の裏山に設置してある炭窯を使って5年生9名が森林教室(炭焼き)を実施しました。

開校式後、竹や落葉などの運び込みからスタート。竹の敷並べ、断熱用の落ち葉入れ、土被せの工程を経て、焚き口から熱風を送り込みました。煙が出始め、窯内の温度が上がってきたところで児童の作業はいったん中断、炭窯の前で「窯や炭」についての説明後、教室へ戻って「森林のはたらき」についての講義を行いました。

午後は、各自持ち寄った材料で花炭作り。結局授業時間内に窯閉めできる状態には至らなかったため職員が窯閉めをすることとし、1日目は終了。

翌日は、期待に胸を膨らませつつ窯出し。土や落ち葉をどけると、きれいな竹炭が姿を現しました。予想していたよりたくさんの量ができあがり、ほっと一安心。

閉会式では、児童から「うちわで熱風を送り込むのが大変だった」「炭が思ったより真っ黒で驚いた」などの感想発表がありました。

2月22日(火)には、翌年度の炭焼きに使用するための竹材の準備を実施。全員で裏山から竹を切り出し、竹割と結束を行いました。(高)



炭窯の前で窯や炭について説明



今回の成果。段ボール箱3つ分の竹炭!



力を込めて竹割りっ!

令和3年度 森林・林業技術等交流発表会に参加

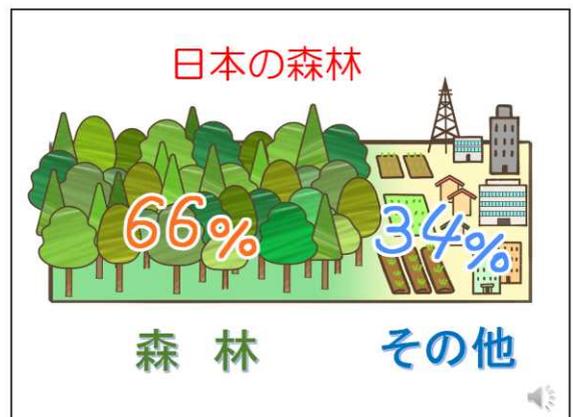
昨年に引き続き、令和3年度森林・林業技術等交流発表会に参加。当センターでは「森林環境教育の教材の作成について」と題して、発表を行いました。

現在、当センターが実施している森林教室で「森林学習」用に作成したパワーポイントは、インターネット等から引用したフリー素材を利用して作りましたが、イラスト等に一貫性が乏しく、教材としての完成度が今一步の感が否めませんでした。そこで今回、森林教室で当センターを利用して頂いている小学校へアンケートを実施して、教材の問題点等を洗い出し、その結果を踏まえて新たな教材を作成しました。

今回の改変を実施した結果、学校側の評価として高い結果を頂くことができました。今後も引き続き検討を続けて、教材作りを実施していきたいと思えます。(磯)



オリジナルイラストで絵柄を統一



学習指導要領に合わせた説明



ショウゴゴケモドキ (ハナゴケ科)

光合成をする菌類があると面白いと思いませんか。

本来、キノコは植物のように光合成で栄養をつくることはできません。そのかわり、枯れ木や落ち葉を腐らせて栄養にしたり、生きている樹木の根から栄養をもらったりしています。

そのようなキノコと違い、地衣類は藻類と共生して地衣体をつくる生き物です。藻類を乾燥や紫外線から守ってやるかわりに、藻類が光合成によって生み出した産物を栄養として利用しています。

地衣類の生育形には葉状地衣、樹状地衣、痂状地衣があり、ショウゴゴケモドキは樹状地衣類です。緑藻を共生藻とし灰白色から緑色をし、先端に径5mm程度のラッパ状の盃をつけます。盃の周囲に褐色の粉子器らんしきをつけることがあります。盃は0.5mm以下の大きさで顕粒状らんがかいの粉芽塊で埋まり、地上や岩上に生育します。(富)



雨に濡れると共生している緑藻の色が表れる



褐色の粉子器

教育機関の皆様へ

森林教室・クラフト体験のお申込み

森林教室をご希望される場合、申請いただく前にご担当の先生方に来庁いただき、開校式から閉校式までの時間割や注意事項、学習プログラムの内容について打ち合わせをお願いするとともに、森林観察コースを実際に歩いていただき、ご確認をいただいております。

クラフト体験につきましても「自由工作」「木ホルダーづくり」等ご要望の内容に合わせた材料を準備する都合がございます。申請いただく前にご担当の先生方に来庁いただき、事前の打ち合わせをお願いしております。

円滑な進行のため、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。



時間割等をご担当の先生方と事前打ち合わせ

クラフト体験工作例



(自由工作)



(木ホルダー)

クラフト体験は、ご要望の内容によって用意する材料が異なりますので、必ず事前打ち合わせをお願いします。

編集後記

森林カレッジの受講生を募集中です。森林・林業に興味のある方の参加をお待ちしています。

構成の都合上、「俺の高尾」は2つ掲載となりました。

スギの雄花



Forest通信 NO.397

発行：林野庁関東森林管理局
高尾森林ふれあい推進センター



ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 042-663-6689 FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>